

特集 外山滋比古先生 講演レポート ～十文字学園女子大学「活字文化公開講座」～

- 05▶新着トピックス 北京語言大学「第1回教職員交流団」
- 06▶学生記者が行く 第44回桐華祭 Jewelry～キラキラ輝く宝物～
- 10▶十文字ニュース 子ども大学にいざ／保護者向け就職セミナー etc.
- 14▶教育・研究最前線 田中茂教授
- 15▶研究室訪問 福岡賢昌講師
- 16▶学科トピックス 18▶公開講座&入試情報 20▶大学新体制スタート



横須賀薫氏

十文字一夫氏

外山滋比古氏



TOPICS

十文字学園女子大学

「新体制」がスタートします!

1学部7学科・短期大学部の新しい学びのカタチ

1学部制の新「人間生活学部」がいよいよ4月からスタート。
社会人として、幅広くグローバルに活躍するための力を養い
人間として、女性としての成長を育む新しい学びの世界が開きます。
全学共通科目「十文字学」「読書入門」も始まります。

全学共通「十文字学」創設

冠講座

女性の生き方を企業から学ぶ
女子大ならではの社会連携講座

「埼玉メディアの現場から」

地元メディアのトップや、第一線で働く女性記者らが志を語ります。
協力：埼玉新聞社、テレビ埼玉、FM NACK5、J.COM、NTTドコモ

「野村證券のグローバルな展開」

ライフプランは人それぞれ異なります。銀行預金、株式投資などいろいろな投資・運用について勉強する授業です。
協力：野村證券

More! 「これからの女性の働き方を、企業から学ぶ」

女子大ならではの講座を開講します!

総合ゼミ

座学や学内にとどまらず
地域・職域と結びつく教育

「雑誌づくり」で地域起こし

地域の活性化と女性の輝きなどをコンセプトに、学生自身が取材・執筆・撮影・編集のすべてをこなしてコミュニティマガジンを制作。創造力を磨きながら自分の可能性を発見し、社会人としての生き方・考え方を身につけます。



「初年次ゼミナール」

読書入門(新設)

読書を通じて「知」を感じ
理解力・創造力を身につける

専任教員がおすすめの1冊を挙げて講座を開き、学生たちはそこから自分の読みたい本を選んで受講します。他学科の学生や教員との間で新しい視点や発想がクロスし、コミュニケーションがいつそう深まります。



「十文字学」の柱となる講義の内容です

女性を学ぶ

- 女性を学ぶ
- 女性とメディア
- 女性と社会
- 女性のからだと心
- 文学と女性
- 女性の社会参画の国際比較

地域・社会を学ぶ

- 新座から学ぶ
- 日本国憲法の内容と精神
- 現代社会を考える
- グローバル化と社会
- 社会の仕組みの理解

人間・環境を学ぶ

- 芸術と人間理解
- 若者と精神保健
- 物質のなりたち
- 地球と環境
- 生命と生態系

2011年4月からの新しい学部・学科構成

- 人間生活学部
幼児教育学科／児童教育学科
人間発達心理学科／食物栄養学科
人間福祉学科／生活情報学科
メディアコミュニケーション学科
- 短期大学部 文学科
国語国文専攻／英語英文専攻

編集後記

今号では、第44回桐華祭をはじめ、幅広い活動に取り組む学生たちを追いました。地域社会とのかかわりを深め、大きく飛躍しようとする学生、学園の姿を見ていただけたのではないのでしょうか。昨年12月の「活字文化公開講座」で講演された外山先生は、学生に向けて「失敗を恐れない

で」とおっしゃいました。失敗を誰かのせいせず、なぜ失敗したのか原因をつきとめることが、私たちが飛躍する大きな一歩になるのではないのでしょうか。

『新座だより』を通じて、新たな「人・こと」に出会っていただければ幸いです。(加藤優美:編集長)

*「新座だより」へのご意見・ご要望は、kikaku@jumonji-u.ac.jp まで。



① 基調講演「我流読書のすすめ」で活字文化の価値を熱く語る外山先生。
 ② ③ 本学図書館にも足を運び、親交の深かった故鈴木一雄元学長の文庫コーナーなどを閲覧。
 ④ 十文字女子大附属幼稚園長時代の思い出を現園長の十文字佑子理事に語った。
 ⑤ 懐かしい思いを胸に十文字理事らと新座キャンパスを散策する外山先生。



1



元附属幼稚園長

外山滋比古先生 お帰りなさい

ミリオンセラー『思考の整理学』の著者として、また
 英文学・言語学の大家として知られる外山滋比古先生をお迎えし、
 十文字学園女子大学「活字文化公開講座」が12月11日(土)に開かれました。

主催：十文字学園女子大学、活字文化推進会議
 主管：読売新聞社
 後援：文部科学省、文化庁
 ※詳細は、2011年1月8日付読売新聞14面(全ページ)に掲載されました。

Vital Message

外山先生から十文字の学生へ

努力した末の失敗も飛躍のバネ

まず、規則正しい生活を送り、毎日を健康に過ごしてほしい。次に、専門の違う人と親しくなることは大学生の特権である。同じ学年の人たちだけでなく、「畑」の違う人たちとよい友だちになってほしい。そして最後に、決して失敗を恐れないことです。

特に若い人には失敗する権利があり、そこから立ち上げられる力もある。努力した末の失敗を味わう経験をして、たとえ壁にぶつかったとしても、すぐにあきらめずに自分で考え、再度チャレンジする気概を持ち、その失敗をバネにして飛躍してほしい。

そのためには、スポーツすることをおすすめしたい。勉強では得られない度胸や意地を身につけることが大切なのです。(取材・文 大野詩歩記者)

対談

十文字理事長との教育論議 言葉と読書指導の大切さで一致

基調講演後、外山先生と十文字一夫理事長との対談が、横須賀薫学長代行の司会で行われた。この中で外山先生は、「魂としての言葉」を教える家庭での子育ての重要性に触れ、十文字理事長も「子どもが大人へと成長していく段階で、読書は極めて大事です」と応じた。外山先生は学校での読書教育の問題点として、「小学校の国語の先生は、文学的な作品教材には一生懸命になつても、そうでない散文になると力が入らない」と、散文を疎かにしている欠陥を突いた。

教員の質が真正面から問われた議論を受け、十文字理事長は、十文字学園女子大学の重要課題の柱である教員養成に言及。小学校教諭、幼稚園教諭、養護教諭、保育士として研鑽を期す約200名の今春卒業見込み者の奮闘を祈り、「卒業生にはこれからが正念場であり、「本物」の先生になれるよう本学として今後の支援を考えています」と、読書をよくし、人間を磨いて教壇に立つ人材を送り出す本学の教育理念を示した。

基調講演

「火花を散らし、本にぶつかろう」 読書を通じた自己創造を

外山先生は基調講演の中で、幼い頃から今日までの読書体験を味わい深く語った後、「私は読書という虫(かいこ)を思い出す。蚕はものすごい勢いで桑の葉を食べ、あっという間に大きくなる。本もそのようにして猛烈に読まなければならない」と強調。「そして、青い桑を食べた蚕は純白の糸を出して、繭を作る。借り物ではないまったく異なったものを作り上げていくのです」と、繭と蚕の絶妙なたとえで、読書の価値を説き、読書を通

じた自己創造が明るい未来を切り開く意義を熱く語った。「我流」で読むことの意味にも触れ、「それを繰り返していれば、知的個性が生まれてきます」「自分の努力、自分の知力、自分の経験などを総合して、火花を散らすように本にぶつかり、今まで気がつかなかったところが見えたりすれば、本はかけがえのないものになるはずですよ」と、「読了」時のすがすがしい達成感を、熱心に聴き入る出席者に伝えた。

新体制スタートに華を添える

「外山先生お帰りなさい」——2010年12月11日(土)、今年4月にスタートする本学の新「人間生活学部」誕生を記念して9417教室で開かれた「活字文化公開講座」は、本学園理事、十文字女子大附属幼稚園長も務めた外山滋比古・お茶の水女子大学名誉教授の啓示に富む講演「我流読書のすすめ」に約500名が集まり、社会人ファン、学生がともに読書のはかり知れない価値をかみしめる機会となった。

講演終了後、十文字一夫理事長、学生、教職員に贈ったメッセージには、外山先生の温かい人柄と教育観がにじみ、4月から全学科の学生と教員が一緒に取り組む初年次ゼミナール「読書入門」をはじめとする本学の新たなキョラムスタートに華を添えた。

崔学長が今春、本学入学式に出席

崔希亮学長が4月5日の本学入学式に出席することが訪問団に伝えられた。

調査① 「北京語言大学」
IT教育・研究状況、交流の可能性

北京語言大学信息科学学院は3専攻(コンピュータ科学技術専門コース、情報管理と情報システムコース、デジタルメディア技術コース)を擁し、大学院修士課程にコンピュータ応用技術専攻を有する学院(学部)である。560名の学生が在籍し(8割が女性)、教員数は34名(教授5名、副教授9名など)。

今回の訪問には、劉院長、除副院长、荀副主任、張IT関係教授の4名が出席され、IT関係の研究教育について話し合った。

信息科学学院は北京語言大学にあることなどから、言語情報の研究が盛んだ。特に、荀教授は日本のATR(国際電気通信基礎技術研究所)に在籍し、母国語が中国語でない人のための中国語学習ソフトの開発にも携わる。

中国では大学から情報教育が始まることが多く、1年生はほとんどが初心者で、実習よりも講義の割合が高い。2000台以上のコンピュータを有し、専門の職員が管理・運営している。

北京語言大学の学生が日本へ留学するならば、半年は日本語のみ、半年は情報を学ぶのがよいとの提案を受けた。IT教育の交流や共同研究にも意欲的で、本学との交流に対する期待は大きい。



中国訪問レポート

北京語言大学「第1回教職員交流団」

IT教育・語学教育交流の可能性、日本語教授法・教材の調査を目的に

調査② 「北京語言大学出版社」
語学教材に関する調査

北京語言大学出版社は中国で最も大きな出版社の一つ。中国語教科書は国内シェア8割を占め、国家選定の「優秀な教科書」150冊中、127冊が選ばれている。

本学との交流の可能性としては、教材をそのまま日本で利用、日本語・中国語教科書の共同開発、日本への教員派遣などが考えられる。今後の交流や本学における日本語教育の参考に、同出版社発行の日本語教科書などを購入した。



調査③ 「上海外国語大学」
日本文化经济学院を訪問

上海外国語大学は全国重点大学の一つ。5学部31学科専攻を設置し、大学院生1400名、全日制本科生6000名、専科生800名、留学生12000名、通信教育学生2万5000名が学ぶ。

今回訪問した日本文化经济学院は、主に日本語言語、日本文学、社会・文化、経済・外交、教育などの領域の専門人材の育成を目的としている。日本の大学との交流実績も数多い。



学生記者の目

人が人らしくあるための方法論を聴けた

本誌・大野記者の1日密着取材



単に自分自身のためだけの読書の仕方ではなく、「世界と戦える人材」になるためにどのように教養・知識・人間力を養うのかを指し示す講演であった。

もちろん、正しい読書の形などないわけだから、自分なりの読み方を越えたことはないのだが、より大切なのは、個人個人がそこから知的人格を確立させることだという、外山先生ならではの人間論をうかがうことができた。

講演の内容は人間としての生き方の根底にかかわる話であるし、また誰にも例外なく与えられた平等を説く話でもある。そうした意義を感じて、会場の雰囲気もほどよい緊張感と集中力に満ちていた。



今回の「活字文化公開講座」は、読書に興味のある人間に限らず、すべての人が人らしくあるために必要な方法論を知ることができ、かけがえのない機会となった。

(大野記者)

聴講学生の声

蚕のよう^{かいこ}に知識を吸収する意欲湧いた

星野クラスの感想レポートから



星野教子教授のクラスから参加した39名の学生も外山先生のお話に熱心に聴き入り、次のような感想を寄せてくれた。

● 桑をはむ蚕のように知識を吸収し、まったく違うものを創り出すべきだというお話聞き、読書が新しい技術を生み、さらなる文化的進化を促す糧となることがわかった。

● 読書百遍という言葉が印象に残った。途中で読むのをあきらめていた本も、これからは最後まで読んで理解しようと思った。

● 今までは人に勧められた本や、人気のある本を読むことが多かった。でもこれからは、自分に合った本を探して「運命の1冊」に出合いたい。そのためにも、もう一度読書を始めてみよう。



● 難しい本はあまり読んでこなかったが、自分の成長のために挑戦してみたい。

◆ ◆ ◆

活字から知識を得ることの大切さに改めて気づかされた講演会。学生たちにとって、読書欲をかきたてるモチベーションアップの機会となったようだ。

(大野記者まとめ)

教員の想い

異文化との接触こそ大事にすべき

国文教員の胸に響いた助言



講演会の熱気が冷めやらぬ中、短期大学の東聖子学部長ら文学科国語国文専攻の教員が、理事長室で外山先生のお話をうかがう機会を得た。

日本文学研究については、これまでの歴史的・時間的視野から地理的・空間的視野への転換が21世紀の新時代には必要であり、そのためには異文化との接触が必須であるとお話だった。外国人による日本文学研究の視座にも興味深いものがあり、英国人アーサー・ウェイリーの「源氏物語」研究や、ロシア人の映画監督エイゼンシュテインの日本文化理解は、地理的視野から日本を読み解くヒントであると言われた。

本学元学長の故鈴木一雄先生(源氏物語)研究の第一人者との交友も懐かし話された。鈴木先生と外山先生、それにもう一方のご友人を加え、専門の違う研究者で長い間「三人会」をされていて、異なる視野から研究の刺激を得られて楽しかったという。鈴木元学長が示された研究意欲についても、臨場感のあるお話をお聞きした。



若々しくエネルギーあふな外山先生の獨創性にふれたお話をうかがって、国文の教員一同、たっさんの知的な研究指針をいただき、大いに発奮した。

(国文教員一同)

Profile

外山滋比古(とやま・しげひこ)◎1923年愛知県出身。東京理科大学英文科卒業。東京教育大学助教授、お茶の水女子大学教授を経て同大名譽教授。元十文字学園理事・十文字女子大附属幼稚園園長。専門の日本文学に他に日本語論、教育論などで知られ、著書も多数。86年に刊行された「思考の整理学」が2009年に発行部数100万部を突破した。



「懐かしの味、おから」をコンセプトに出店したのは「名倉庵」。卵の花入りのおから饅頭、一つひとつにいねいに丸めたおからボーロ、粒あんと相性のよいおから白玉と、普段捨てられてしまうおからを活用した、趣向を凝らした商品が並んだ。

「小林研究室」は毎年、発売と同時に即完売している常連。今年はチーズスフレを販売。にんじんの加え方に試行錯誤を繰り返して、試食のたびに小林先

生がアドバイスしてくださった。抜群のチームワークで生まれたスフレは濃厚でしつとり。

「米とPizza」を出店した小倉ゼミは、生地も oneself 手作り。米粉ピザを販売。もちもちとした食感の生地に米の甘みを感じられる。おいしい米粉ピザは、日本の米の消費量と食料自給率を上げる取り組みに貢献する。

(取材・文・写真・今井友里子副編集長、小林いずみ副編集長、小林夏美副編集長)

お互いがライバル!? 個性あふれる美味満載

食物栄養学科の飲食店/名倉庵・小林研究室・米とPizza

Closer 会場点描

多彩な企画で 中国、スリランカを紹介

留学生別科が初の出演



中国、スリランカ出身の留学生別科生が「文化交流展」を出展。その内容は、日本に来てびっくりしたこと、中国茶や少数民族、民族衣装、世界遺産、スリランカ文化の紹介など実に多彩。留学生と日本の学生が語り合うコーナーやステージでの中国の歌などの催しも企画した。なかでも、自分で体験できる「中国結」や「アイスコーナー」が人気を集めた。

代表のキョウジョケンさんとジョーエンエンさんは「日本の人たちに、中国をもっと知ってもらい、中国に来てほしいと思ったから」と出展のきっかけを話す。

桐華祭への出展自体が初めての経験だが、「みんな力を合わせて、盛り上げていくのはとても意味のあること。日本人学生と話す機会にもなりました」と満足そうだった。

友だちがたくさんほしいので、もっと日本の学生と交流したい、と今後の抱負を語ってくれた。

(取材・文・写真・森平祐衣解説委員、員リウシウキ工解説委員)

Jewelry キラキラ輝く宝物



第44回桐華祭 宝石のように みんなが輝いた2日間

十文字学園女子大学の秋の一大イベントといえば、「桐華祭」! 昨年の10月23日(土)・24日(日)の2日間にわたって開催したくさんの学生や地域の方々にご来場いただきました。



盛りだくさんのイベントを開催 大切な思い出をいつまでも

第44回桐華祭のテーマは「Jewelry〜キラキラ輝く宝物〜」。33の飲食団体、88の文化展団体、6つのフリーマーケットなどを開催。2日間で9053名が来校し、キャンパスは大いに盛り上がった。極上の笑顔で来校者を迎えた学生たちの姿は、趣向を凝らした衣装も手伝って、本当に色鮮やか。まさにジュエリーのように「ミュージカルの楽しみ

方」と題した渡辺保氏の講演会や「ハライチ」あめんの笑いミライブ、俳優・三浦春馬さんのトークショーといったイベントも大盛況を博した。

「人生という宝箱の中に、桐華祭での経験を『宝石』としてそっと入れてほしい」とそんな桐華祭実行委員会の思いは、学生・来校者の方々に届いたのではないだろうか。

スタッフや参加者が力を合わせて みんなの力で大成功に導いた

「一からつくりあげてきた桐華祭は大成功。そして、それは『Jewelry〜キラキラ輝く宝物〜』のテーマに沿ったものになったのではないのでしょうか。みなさんのすばらしい思い出となればうれしいです」

24日の夕方、エンディングセレモニーで舞台上に上がった桐華祭実行委員会・高橋千尋委員長は、そう挨拶し、長い時間をかけて準備を進めてきた委員や参加団体をねぎらった。

事前準備と当日の運営を行った150名余りの実行委員と100団体以上の参加者が力を合わせた第44回の桐華祭は、今年も多くの来校者を迎え、大成功をおさめて無事に終了した。一人ひとりの胸に残った思い出は、学生のこれからの人生を励まし続けてくれることだろう。

(取材・文・加藤優美編集長 写真・関根由貴解説委員)

新座市在住の少年が無事、手術に成功

【ミニテーション学科・橋本ヒロ子ゼミは、恒例の「国際協力ラーメン」を販売した。売上金の一部が途上国の子どもへの勉強支援のために寄付されることになり、この店名がつけられた。今回の売上金は、海外援助のほか、新座市の「よしきくんを救う会」に寄付された。新座市に住む9歳の竹内義貴くんが、アメリカで心臓移植の手術を受けるための資金援助を募る団体だ。

昨年11月、橋本ゼミは団体代表者の清水真里さんを招き、寄付金を手渡した。その後、清水さんからお礼状を受け取った。義貴くんの手術は、昨年11月に無事成功。その後の経過についても、清水さんから引き続き報告を受け、交流を続けている。

(取材・文：三浦秀佳記者)



「よしきくんを救う会」代表の清水さん（前列左）と橋本ゼミのメンバー。

にぎやかな踊りが老若男女を魅了

10月23日(土)桐華祭1日目に記念ホール、カフェテリア(音楽の広場)で、「ミニテーション学科」3年・岩谷望さん、児童教育専攻2年・生島成美さんの2名が所属する「高円寺しのぶ連」による阿波踊りのパフォーマンスが行われた。

高円寺しのぶ連は、東京都杉並区高円寺梅里地区発

祥の38年の歴史がある阿波踊り連。今回初の学園祭出演は、岩谷さんと生島さんたちの希望。

公演を終えた生島さんは「高円寺しのぶ連の皆さんと十文字で踊るのが夢だった。たくさんの方が見に来てくださったことにうれし」と語った。

代表の青木康郎さんも「岩谷さん、生島さんも



しんで踊っていたのでよかった」と満足そう。カフェテリアでの「look at me!!!」では、見事第一位を獲得した。

(取材・文・写真：松岡みどり記者)

ゼミ生が一致団結！おいしいペンネが大好評

目標は「一致団結!!」。「ミニテーション学科」松永ゼミの皆さんが、桐華祭の機会を捉え、ゼミ仲間の結束力を高めるために出店した。

ソースもすべて手作りのペンネは、大行列ができるほどの大人気。店内は、ハロウィンにちなんだ装飾をほどこし、学生たちはかぼちゃの衣装

で、来店者をもてなした。松永ゼミの個性があらわれるお店になっていた。

(取材・文：上野志織総合リクス副編集長 写真：関根由貴解説委員)



児童教育専攻の1年生の学生たちは、ボティペイントや輪投げ、スライム作りなど、子どもたちをもてなすイベントを多数催した。会場となった教室は子どもたちの笑い声が絶えず、大盛況だった。

体を動かす遊びでは元気いっぱいの子もみんちが、一方で、ボティペイントやスライム作りには、集中力を発揮して、真剣に黙々と取り組む様子が見られた。

児童教育専攻1年の末久真由さんは「子どもたちは

ちよっとしたことにも一生懸命で、純粋で」と話す。児童教育専攻ならではの催しで、子どもたちを楽しませるだけでなく、学生たち自身も、子どもたちの純粋な気持ちから学ぶことも多かったようだ。

(取材・文・写真：三浦秀佳記者)

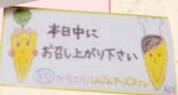


解説とともに、ミュージカル映画の世界を堪能

演劇評論家で本学客員教授である渡辺保先生の講演会「ミュージカル映画の楽しみ方」が「オペラ座の怪人」と「シカゴ」とが開催された。主催はエクステンションセンター。

渡辺先生は歌舞伎の劇評家として知られるが、以前、映画会社・東宝に在勤中、「シカゴ」の興行権を買入れた経歴を持つ。講演では、ソフトな口調で当時のエピソードを語りなが

ら、ミュージカル映画の魅力を解説。華やかな映画の世界を、先生の説明つきで堪能できる贅沢な90分は、あっという間に過ぎ去った。



発表! 2010年度「桐華賞」

～学長賞など8団体が栄誉の受賞～

桐華祭に参加した団体のうち特に優れた取り組みを讃える「桐華賞」が決定。学長室で賞状や楯、賞金が授与された。

学長賞	文化展部門	華道部/生け花の展示
	飲食店部門	みちこのにんじんチーズフレ/にんじんチーズフレの販売
埼玉県知事賞		ハングル広場[文化展]/ハングル・ゼミの成果発表
埼玉県教育委員会教育長賞		教育課題大研究! 第4代燃隊[文化展]/養護教諭教職課程履修者による研究発表
埼玉県芸術文化祭実行委員会会長賞		J♥和太鼓[文化展]/和太鼓の演奏
奨励賞		鶴木ゼミ～心に心のおすそわけ～[文化展]/卒業研究発表、ストレス値の測定
		サッカー部[飲食店]/お好み焼きの販売
		茶道部[飲食店]/抹茶・和菓子の販売

1年がかりで完成したオリジナル大作

桐華祭で幼児教育専攻の3年生により行われたオペレッタ「4つのしあわせ」について、小人役の富士森咲さん、高橋菜由さんにお話を聞いた。

些細なことでもけんかをしていた、季節をめちゃくちゃにしてしまった四季の妖精たちが、具合が悪くなってしまった村の小人たちのために、力を合わせて美味しいスープを作り、小人たちが元気を取り戻すというストーリーだ。

子どもと一緒に楽しめるよう、仲間の大切さや、日本特有の四季の大切さを感じてもらえるテーマを考えたという。また、劇中小人が客席において、観客と手をつないだり、随所に子どもたちを飽きさせない工夫も盛り込まれている。

伝えたかった仲間の大切さを、自分たちがいちばん感じた」と充実感たっぷりに話してくれた。

(取材・文：上柿茜記者・天羽洋子記者)

自分たちで考えた完全オリジナルのストーリーや台詞は、2年生の「歌唱法Ⅰ」という授業で一昨年の12月に発表したものを

ベースに、今回発表した。劇中、小人が客席において、観客と手をつないだり、随所に子どもたちを飽きさせない工夫も盛り込まれている。



小学生を対象とした「子ども大学にいざ」を開講。全員で校歌斉唱

「学びは友情・冒険・想像の3つである」横須賀学長代行が語る

昨年10月9日(土)から2カ月間、公開講座「子ども大学にいざ」が本学で開講された。受講生は、市内外の小学3年生〜6年生の中から、抽選で30名が選ばれた。

入学式では、本学教授の狩野浩二実行委員長が「学ぶ楽しさを見つけてほしい」と子どもたちを激励した。「子ども大学にいざ」の学長を務める、本学の横須賀学長代行は、「学びは友情・冒険・想像の3つである」と語った。

この日のために「子ども大学にいざ」の校歌が制作された。作詞は横須賀学長代行、作曲は本学の清水玲子教授が担当。歌詞には「友だちをつくり、友情を育みな

ら何にでも冒険心を持って挑んでほしい」という願いが込められた。

入学式終了後、井口磯夫教授による第1回目の講座「水口ケットで遊ぼう」が開講された。保護者が見守る中、子どもたちは熱心に口ケットを制作。屋外で一音に口ケットが発射され、会場に集まった一同は歓声をあげた。

講座は全4回。子どもさまざまな疑問に答えるため、教授陣が趣向を凝らした講座を展開し、12月4日(土)の「子ども音楽鑑賞教室」をもって全講座が終了した。修了式では、受講生一人ひとりが横須賀学長代行から名前を呼ばれ、修了証書

が授与された。また、元宝塚女優で、講座のゲスト講師でもある真園ありすさんも加わり、全員で校歌を斉唱。埼玉県教育局市町村支援部の牧恒男課長、新座市教育委員会教育長の金子廣志氏が成果をたたえ、受講生代表は「オリエンテーションの講義がとても楽しかった。リーダーシップも発揮できた」と話した。

(取材・文：大野詩歩記者、松岡みどり記者
写真：関根由貴解説委員)



横須賀学長代行から修了証書を受け取る受講生。

子ども大学にいざ校歌 (1番)
作詞よすか かおる
作曲しみず れいこ
はじめて会った友だちとはじめて会った先生と
これからみんなで学びあう学ぶ楽しさひろがって
手に手をつなげて仲間へと
学びは友情(ゆうじょう)心と心をつなげてくれる
子ども大学にいざ

「保護者向け就職セミナー」で就職活動に対する親子の向き合い方を伝授 学生が自ら考え、行動することがポイント

昨年9月25日(土)、保護者向けの就職セミナーが行われ、300名を超える参加者が集まった。セミナーに先立ち、十文字一夫理事長、横須賀学長代行、橋本ヒロ子副学長が、大学としての就職支援や進学改革について説明し、人材を磨き、社会に送り出す本学の姿勢を示した。

その後、総合人材コンサルティングを手がける株式会社ディスコ代表取締役の夏井文俊氏が、「子どもが就職活動をする者がどう理解し、対応するべきか」をテーマに講演。リーマンショック以降、さらに厳しい就職環境の中、子どもが実りある学生生活を送るためにはどうすればよいか、

親子でどのような会話をし、就職にどう向き合うべきか、子どもの卒業後を見据えた親の心構えについて解説した。

夏井氏は「子どもが自ら考え、自ら行動することが就職活動の最大のカギ。親はそのサポーターになってほしい。親も就職状況に関する知識を持つこと、自己分析のよきアドバイザーになること、親の価値観を押しつけないこともポイントです」と語り、参加者はメモを取りながら熱心に耳を傾けた。

◆参加した保護者の声
「娘には、資格を生かして就職するか、違う道に進むか、自分自身で決めてほしい」

(児童幼児教育学科・保護者)

「娘が3年生でそろそろ就職活動を始め時期。セミナーに参加し、最近の就職事情について理解が深まった。子どもの意志を尊重し、必要な時にアドバイスができるようにしたい」(食物栄養学科・保護者)

◆就職活動を理解しようとしてくれる親の姿を見てうれしかった。自分もしっかり将来を考えていきたい。
(取材・文：小林いずみ副編集長、小林夏美副編集長)



講演する夏井文俊氏。



セミナー(写真)後には、学科別説明会も開催。よい意見交換の場に。

「新座市健康まつり」で、長澤ゼミの骨密度測定体験コーナーが大反響 2時間で計127名の骨密度を測定

食物栄養学科・公衆栄養学の授業では、国の公衆栄養施策や、行政栄養士が地域住民に対して行う身近な健康増進サービスなどについて教えている。そのような立場から、新座市健康づくり推進協議会の副会長、および「新座市健康まつり」の実行委員を担当している。

昨年10月24日(日)、新座市保健センターで「第30回新座市健康まつり」が開催された。長澤ゼミからは初めて、3年生4名が参加し、「骨密度測定体験コーナー」を開設。また、骨粗鬆症を予防するための食事や運動習慣、骨粗鬆症のチェック項目を掲載したリーフレットを作り、配布した。

学生は地域の方々や触れ合うことで、座学では得られない貴重な体験をしたようだ。

◆参加した学生の驚きと喜びの声
今回のイベントで一番感じたことは、たくさんの方が健康に関心を持っているということ。私たちの骨密度測定体験コーナーもたくさんの方に興味を持っていただき、用意していたリーフレットが足りなくなるほどの大盛況だった。健康まつりが開催された2時間で女性96名、男性31名の計127名を測定することができ、驚きと喜びを感じている。
また、幅広い年代の方と健康や栄養に

ついてお話ししたことで、地域の方々が抱えている悩みを知ることもできた。具体的には、子どもの好き嫌い対策や、リーフレットで紹介した食材を利用した食事メニューについて相談を受けた。



JR新座駅前「赤い羽根共同募金」を呼びかけ 地域の福祉に役立てて……佐藤ゼミの学生らが参加

JR新座駅前では昨年10月4日(月)、人間福祉学科・佐藤ゼミの学生らが乗降客に対して「赤い羽根共同募金」を呼びかけた。今年で3度目となるこの活動は、「地域福祉」研究の一環だ。

改札の前に立ち、乗降客に精一杯呼びかけたゼミ代表の西村百絵さん。「募金に興味はあるけど勇気の出ない人、がんばってと励ましてくれる人など、募金に対して抱く感情は人それぞれだと気づきました。募金に協力しやすい雰囲気をとんとんつくってきたい」と、今後の目標を語った。



大きな声で募金を呼びかけるゼミ生。

(取材・文：森平祐衣解説委員
写真：関根由貴解説委員)

学内初の留学生内定発表会を開催 「自分を鍛える機会に」内定者が後輩にエール

1月13日(木)、「第1回留学生内定者体験発表会」が開催され、本学の留学生70名が参加した。橋本ヒロ子副学長が激励の言葉を贈った後、元埼玉銀行(現埼玉りそな銀行)採用グループリーダーの村瀬博樹氏が「留学生の就職の心構え」をテーマに講演。「企業の面接では就職希望者の確かな対応力が評価されます。自分で考えて発言し、行動できるような心掛けてください」とアドバイスした。また、リユージュエンス(株式会社三光マーケティングフーズ内定)、ティセホウさん(コーチジャパン合同会社内定)、ユナイテッド(株式会社アルカ内定)が、後輩

助言。「就職活動は自分を鍛えるいい機会。絶対、あきらめないでください」と後輩たちを励ました。
(文：国際交流支援部・小林晶誠)



児童教育専攻4年生によるピアノ発表会

美しい音色に、多くの学生・教員が聴き入る
昨年10月13日(水)〜15日(金)、昼休みを利用し、児童教育専攻4年生有志15名による音楽会が8号館1階で開催された。



「十文字学園手帳」好評、今年も在学生にサラダバーで栄養バランス(カフェテリア)

生協が運営する十文字カフェテリアでは昨年9月、サラダバーが登場。栄養のバランスを考へながら、好きな野菜を好きなだけ選ぶことができ、一番の人氣メニューだ。



「2011年度版 十文字学園オリジナル手帳」のデザイン。

平成22年度課外活動等優秀者表彰式

交通安全ポスターの作成など、学生の活躍を讃える
課外活動において、特に顕著な成績をあげ、その振興に功績があったクラブなどに対し、昨年11月18日(木)、宮丸凱史学長が賞状及び記念品を授与した。



宮丸学長と、賞状を手渡された学生たち。

免許状更新講習のお知らせ

平成23年8月に講習を実施予定
教員免許更新制は、教員が定期的に最新の知識技能を身につけることで、必要な資質能力を保持し、社会の尊敬と信頼を得られるよう、平成21年4月に導入された。

お問い合わせ
社会交流支援部/教職課程センター
E-mail: kyosyoku@jumonji-u.ac.jp
TEL: 048-477-0579

テイゲイカさんが米山奨学生に

社会情報学部社会情報学科3年のテイゲイカさんが、書類選考・面接の結果、2011年度財団法人ロータリー米山記念奨学会の奨学生(学部課程)に選ばれた。

学位記授与式のご案内
大学、短期大学部共同にて学位記授与式を行います。どうぞご参列ください。
日時 平成23年3月19日(土)10時30分
会場 本学 記念ホール2階 メインアリーナ

「国連婦人の地位委」日本代表に橋本副学長

外務省から委嘱され、2月下旬に訪米
教育・社会・政治分野などにおける女性の地位向上を推進する「国連婦人の地位委員会」(国連経済社会理事会の機能委員会)の日本代表に橋本ヒロ子副学長(社会情報学部長)が選ばれた。



小布施前短期大学部長が教育功労者表彰

十文字学園女子大学短期大学部の発展に力を注いだ小布施圭三先生(前短期大学部長)が、「短期大学教育功労者」として表彰された。



志村副学長が功労賞を受賞

志村二三夫副学長・人間生活学部長は昨年9月10日(金)、栄養学雑誌(特定非営利活動法人日本栄養改善学会学術誌)の編集委員長として同学会の発展に貢献した功績が認められ、功労賞を受賞した。



鎌田教授、ロシア科学アカデミーから表彰

人間生活学部・鎌田恒夫教授が、地球化学・分析化学会に対する貢献や共同研究などの成果が認められ、昨秋、ロシア科学アカデミーの表彰を受けた。



十文字OGトーク

「身をきたへ」とともに過ごした大切な日々

あすま遊馬朱美さん

十文字学園女子短期大学学科国語国文専攻5回生。主婦。
★特別参加・娘の恵さん: 十文字学園女子大学人間生活学部食物栄養学科5回生。丸和油脂株式会社開発部開発課勤務。



恵 — お2人は、なぜ本学への入学を決めたのですか?
遊馬 環境がよく、都内に行くより安心だと考えました。娘の場合は女子高出身で、栄養学の勉強をしたかったので、十文字をすすめました。

遊馬 — 当時の就職活動はどうでしたか?
遊馬 昔は、先生方に相談して就職を決める人が多かったですね。今ではそれに加え、キャリアセンターでも就職の相談ができるので、とても心強いと思います。

遊馬 学生時代は、多くの時間を自分のために使える時期。とにかく楽しんでほしいです。
遊馬 仲間からまた人間関係が広がりますから、おつき合いは大切にしたいですね。

若桐山脈

この先生に会いたい

田中 茂教授

人間生活学部食物栄養学科

食と労働衛生の両面から現場の安全を守る人材を



働く人を守る 管理栄養士の使命

「人として生まれれば、生きていくために働かねばなりません。高い所や有害な物質を扱う危険な場所で作業する人たちに特に大変です」作業環境の改善、充実は当然のことですが、種々の事情で完璧に安全にはできない現状です(田中茂著「知っておきたい保護具のはなし」(中災防新書)より抜粋)

2009年夏に上梓した著書の一節が田中教授の研究テーマの核心であり、その存在は管理栄養士輩出の伝統を重ねるわが校の食物栄養学科にとって、欠かすことのできない教学の柱だ。「現場で働く人の安全と健康

社会が求める 有用な人材を育成

を守る「使命は、いまや、給食管理とその作業を第一線で指導する管理栄養士に託された社会的要請なのであり、平成21年4月から、本学が全国で初めて管理栄養士養成大学として、「第一種衛生管理者免許」を在学中に取得できる講座を開設できたのは、栄養学関係教授陣とともに、労働衛生にかかわる田中教授を中心とした研究者の協力が実ったからである。

従業員50名以上の事業所に配置が義務づけられる第一種衛生管理者は、仕事によるケガや病気の防止、有害物質管理、労働安全衛生法の遵守のみならず、食生活を含めた生活習慣改善や健康のための栄養教育までを担う。この資格を兼ねそなえるこ

とは本学出身の管理栄養士の優位性を意味し、「快適な職場環境づくり」のために幅広い資格を持つ人材を採用したい企業ニーズに十分応えることになる。「学生たちにとって、就職は一生の一大事ですから」。世の中に立ちて甲斐あれ、と願う学園歌の魂は、田中教授のリアリズムに満ちた教学目標でもある。「あなた方は、やがて管理栄養士となって現場のリーダーになるのですから」。田中教授は、昨年暮れ、白衣にスニーカー姿で「公衆衛生学実験」を受講した1年生を前に、給食現場で働く人の安全に対する細かな目配りの必要を説き、ノートづくり方まで懇切丁寧に指導してきた。桐華祭では、ゼミ生10名が「業務用厨房、給食施設では労働災害が多い。管理栄養士が衛生管理者の職務を学ぶとどう変わるか」をテーマに発表し、その研究成果を世に問う舞台回しに努めた。立てば歩めの「親心」が、研究室に張られた学生たちの笑顔の写真から伝わってくる。

学生に伝える 「働く人」への想い

田中教授はもともと、化学の研究者である。大学院の実験

室にこもっている間に「人恋しく」なり、より人の安全、健康にかかわることが大事と考え、「中央労働災害防止協会」へ。化学物質が健康に与える影響の研究や災害防止の指導に携わってきた。現在は安全衛生保護具研究のバイオニアとして評価され、昨年末には、日本化学工業会に招かれ「保護具の適正使用」と題して講演した。「病気にさせない一次予防、早期発見と早期治療の二次予防、治療と社会復帰の三次までの段階は、早いほどよいのです。その指導の大切さを教えるのが私の役目です」働く人のための安全観・健康観が田中教授の全身から十文字学園の学生に浸透する毎日だ。(取材:文・大西正行)

Profile

たなか・しげる◎早稲田大学大学院理工学研究科修了。中央労働災害防止協会、北里大学助教授を経て、十文字学園女子大学人間生活学部教授(平成19年同学部食物栄養学科長)。同大学院人間生活学研究科教授。保健学博士。厚生労働省「化学物質の健康障害防止措置に係る検討会」委員等。[研究分野] 労働衛生学、作業環境学 [担当科目] 公衆衛生学・実験、健康情報処理実習、インダストリアルハイジーン論I など

福岡賢昌講師

短期大学部 文科学部英語英文専攻

実践を重視した学びで 世界に発信できる力を養う

段階的な学習方法で 着実にスキルアップ

演習のテーマを教えてください。福岡 人にわかりやすく説明するための思考と技術を学び、総合的な「プレゼンテーションスキル」を身につけることですね。――どのようにしてスキルを身につけるのですか? 福岡 授業は講義、ワーク、発表の3つが中心です。講義ではプレゼンテーションをする際に必要な知識・スキルを、ワークでは実際にPowerPointでスライドを作成し、論理性と色、フォント、グラフなどのビジュアル効果について学びます。そして最後の発表では効果的な姿勢、アイコンタクト、声、ジェスチャーなどを学びます。学生同士がお互いによかった点、改善点を指摘し合い、議論しますので、授業はいつも活気にあふれていますね。今年「世界

Table with 3 columns: 芸能関連 (杏, 北野武, 宮崎駿), スポーツ関連 (浅田真央, 荒川静香, 越川優, 田臥勇太, 中田英寿), 音楽関連 (宇多田ヒカル, GLAY, EXILE, JAM Project)

アウトプット力は 現代人の必須スキル

受講生に期待することは? 福岡 インプットだけでなくアウトプット力を磨いてほしいと思います。グローバル時代に必須の力ですので、ぜひ積極的に取

で活躍している日本人」をテーマに発表してもらいました。

り組んでほしいですね。就職活動にも役に立ちますよ。

――先生ご自身は、異文化交流が専門と伺いました。 福岡 異文化間のビジネス交渉に多くかかわ



福岡先生の演習データ

1年生: 16名 人にわかりやすく説明するための思考と技術を学び、総合的なプレゼンテーションスキルを身につける。科目名は「プレゼンテーションスキルズ」

Profile

ふくおか・たかまさ◎短期大学部文科学部講師。NTT、NTT東日本、NTTコミュニケーションズを経て現職。法政大学文科学部英文学専攻卒業、法政大学大学院経営学研究科修了、東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻博士課程。(財)ミプロ対日投資促進調査委員会委員。日本交渉協会認定交渉アナリスト。[研究分野] グローバル人材育成のための英語教育、異文化交流、異文化経営 [担当科目] 異文化コミュニケーション、ロジカルシンキングなど

日本文化を世界に発信 地域へと還元したい

面についての知識や技術が不足していると、日本人はさまざまな場面で機会損失に陥り、世界から後れを取ってしまいます。

――これからどんなテーマを取り上げていきたいとお考えですか? 福岡 日本のすばらしい文化がどうしたら海外で認知され、興味を持ってもらえるのか。その方策や必要な人材、そして効果について研究したいですね。その結果、地域活性化に貢献できればいいと思います。

受講生に聞きました

プレゼンテーションのときのジェスチャーや話し方、資料作成について講義と演習で学んでいます。講義は、福岡先生の体験談も交え、実践的なお話がたくさん。しっかり経験を積めるように、演習に多くの時間を割くので、力が付いていることがよくわかり、自信を持てるようになる授業です。(1年 堀川 藍)

PRESENTATION SKILLS PRESENTATION SKILLS

社会情報学科
デジタルテクノロジコース

本学初の合格者
シングルスターを取得

インターネットの発展により、今では国境を超え、誰でも簡単に情報のやりとりができるようになった。しかし同時に、コンピュータウイルスや情報流出の危険性も拡大している。そこで私は、インターネットの正しい知識を身につけるため、昨年の夏、本学では初となるインターネット検定「ドットコムマスター」のシングルスターという資格を取得した。より実践的な内容を学んだことで、自信にもつながった。

また、秋にはMicrosoft Certified Application Specialist (MCAS)、そして国家試験であるITパスポートを取得。現在はインターネット検定のダブルスターと基本情報技術者取得のために勉強に励んでいる。この春に3年生になるので、いよいよ就職活動を意識しはじめなければいけない。就職活動に向けて、成績だけでなく、自分磨きを怠らないようにしていきたい。「学ぶことは自分を磨くこと」を合言葉に、あと2年間の学生生活を、ますます実りあるものにしてほしいと思う。
(2年 中里洋子)

社会情報学科
ビジネス情報コース

充実した1年間と
これからやりたいこと

間もなく1年生を終える二人に、十文字での大学生活の感想と今後の抱負を語ってもらった。まずは入学後、簿記に興味を持ち、今は二級を目指しているという村井有香さん(写真左)。

「経営学基礎や国際経営論の授業を通して経営学の面白さを知りました。このコースでは情報系の授業も多く、コンピュータの仕組みなども学べて楽しかったです。英語も好きなので、今後はTOEICを受けてみたいですね」

インターネットビジネスの授業が楽しかったという福本祐紀子さん(写真右)は、来年度の桐華祭実行委員の飲食局副局長に就任。「よりよい桐華祭にするために、しっかり仕事に取り組みます。講義に関しましては、



川口先生の政治学基礎を受けてから時事問題への興味が湧きました。同好会でもやっている手話の練習もがんばります！

コミュニケーション学科
マスメディアコース

ゼミ生が取材し、
専門誌に記事を連載

全国の体育教員や教員志望者(主に女性)を対象にした専門誌「女子体育」に、身体表現ゼミの学生が「グッドブラクティス(GP)」という連載を担当している。都内だけでなく、関東近県を含む地域で活躍しているクラブの指導者取材し、写真も自分たちで撮影。そのクラブの特徴や指導者の魅力などを記事にしたものだ。



70代、80代の方が軽やかに運動しているのを目の当たりにして、驚いたり感動したり……。元気に指導されているのほが元気をもらっているようだ。

コミュニケーション学科
現代社会コース

達成感を味わった
「Ecoだっち」の発表

昨年10月に行われた桐華祭に、2年生有志とFS環境を履修している学生が協力して、「Ecoだっち」という団体名で参加した。大学の省エネプロジェクトの一つ

コミュニケーション学科
マスメディアコース

として前期から行ってきた「学内照明・エアコン点検つばなし調査」や、学生自身で調査した「エコ仕分け」の結果を、ポスターやコンピュータを駆使して発表。展示物作成の際の役割分担やスケジュール調整が大変だったが、「意見が違っても、それをまとめて一つのことを完成させることの大切さを学ぶことができた」とこの展示が、環境を意識して本当のエコを考えるきっかけになれはうれしい」という声も上がり、みんなでやり遂げたという達成感が、彼女らを成長させたようだ。



3回目を迎えた埼玉県立和光特別支援学校との交流会が、昨年11月

児童幼児教育学科
幼児教育専攻

貴重な体験となった
特別支援学校との交流

3回目を迎えた埼玉県立和光特別支援学校との交流会が、昨年11月

児童幼児教育学科
幼児教育専攻

飛び交う歓声と汗！
「スポーツデー」を開催

昨年11月20日(土)、山本ゼミ3年生が中心になり、全学の1~4年生に呼びかけて「スポーツデー」を開催した。種目は、小学校の運動会でも楽しんだ玉入れや大玉ころが

し、さらにソフトバレーボールなども取り入れ、いろいろな学科の学生が一緒に楽しく交流のときを過ごした。



食物栄養学科

高齢者のための
調理教室を開催

昨年12月11日(土)、「高齢者のための調理教室」低栄養や生活習慣病予防のために。主菜、副菜を揃えてバランスよく」を開催し、岩本珠

人間福祉学科

卒業論文を学外で発表
他校の学生との交流も



よく動かれますね。実習台に一人ずつ入ってくださったので、すみやかに料理を作ることができました」と参加者からも好評であった。

昨年11月21日(日)、第4回埼玉高齢者福祉研究会(大宮ソニックホール)にて、人間福祉学科4年の内田純子さんが、卒業論文「実践報告・山村過疎集落のフィールドワークから学んだこと」を発表した。交流する都市住民の想いに注目し、ゼミの仲間とともに秩父市吉田太田部集落を繰り返し訪れ、集落に住

人間発達心理学科

NPQ活動で広がった
視野と価値観



「実際に関連する研究発表が多いなか、戸惑いもありましたが、実習施設以外の場で高齢者とかかわり、学びを広げられました」と内田さん。発表の場では、他校の学生との交流があったのもよい経験となったとのことである。

私は「カタリバ」の活動に3年生から参加している。「カタリバ」は、キャリア教育を目的に、主に高校生を対象にしたコミュニケーションのプログラムを実施しているNPQ団体だ。50名程度の大学生や社会人などが一緒に高橋に出身、生徒の話や聞き取り、先輩として自分の経験を話したりして、

短期大学部文学科
国語国文専攻

「ハンゲル広場」が
桐華賞を受賞!

21世紀は東アジアの時代であり、隣国の文化理解は大切。そう考えて昨年、桐華祭では、「ハンゲルゼミ」が韓国の歴史や現代文化の展示を行った。「ハンゲル広場」と名づけた展示会場では、曹喜先生の指導のもと、韓流第二チームなどの最新事情を映像で紹介し、伝統文化を解説。圧巻はチマチゴリの試着コーナーで、行列ができるほどの人気を博し、桐華賞(埼玉県知事賞)を受賞した。代表の中山桃子さんは、「大変だったけれど、みんなよくやってくれた」と感激の面持ち。

後期は、課外授業に出かけることも多かった。清水先生の劇団四季コンサート、平野先生の東京国立博物館での仏像見学、東先生の深川・浅草江戸文学散歩、太田記念美術



短期大学部文学科
英語英文専攻

正確な英語よりも
「伝わる英語」を実感

昨年12月9日(木)、講演会「ASEAN諸国の魅力」を開催した。講演者は日本アセアンセンターのイン・タウン氏(カンボジア出身、通訳は、同センターの洲上英慶氏。多くの学生にとり、東南アジア出身者の英語を聞くのは初めての経験であった。日焼けした肌と、にこやかな笑顔が印象的なイン・タウン氏は、統計や視覚資料を使ってASEAN10カ国を紹介。学生にもわかりやすい英語だった。



洲上氏は、東南アジアの英語は「Yesterday I go Singapore.」だと言った。正確な英語ではないが、意味は間違いなく伝わる。社内の公用語を英語にする日本企業が、増えているなか、求められるのは正確さよりもむしろ、意思を伝えられるかどうかののだと改めて実感した。

チャンスはまだまだこれから!

3月に
出願できる入試は
次の通りです

◎平成23年度 入試日程

一般入試					
学部	学科	募集定員	出願期間	試験日	合格発表
人間生活学部	人間福祉学科	2名	郵送:3月3日(木)~3月14日(月) 必着 窓口:3月15日(火) 9:00~12:00	3月17日(木)	3月19日(土)
	生活情報学科	5名			
	メディアコミュニケーション学科	5名			
短期大学部	文学科国語国文専攻	5名			
	文学科英語英文専攻	5名			

AO入試

対話型・有資格者型AO入試

形式	学部	学科	エントリー期間	面談日	選考内容
対話型	人間生活学部	人間福祉学科	V期 郵送:2月10日(木)~ 3月15日(火) 必着	個別に連絡	①エントリーシート ②面談 ③レポート ※有資格者型はレポート免除
		生活情報学科			
		メディアコミュニケーション学科			
有資格者型	人間生活学部	文学科国語国文専攻			
		文学科英語英文専攻			

★面談では、希望学科の教育内容や特色・資格などについての理解を確認します。
また、志望理由や将来の希望などを話していただきます。皆さんの考えを面談を通じて伝えてください。

課題型AO入試

形式	学部	学科	エントリー期間	課題・面談日	選考内容
課題型	人間生活学部	幼児教育学科 児童教育学科 人間発達心理学科	郵送:2月26日(土)~ 3月12日(土) 必着	3月17日(木)	①エントリーシート ②面談 ③幼児:作文・話し合い 児童:表現活動 心理:小論文

Check! AO入試説明会 平成23年3月8日(火)13:00~/本学新座キャンパスにて/事前予約は不要

編入学入試

学部	学科	募集定員	出願期間	試験日	合格発表
社会情報学部	社会情報学科	5名	郵送:3月3日(木)~3月14日(月) 必着 窓口:3月15日(火) 9:00~12:00	3月17日(木)	3月19日(土)
	コミュニケーション学科	5名			
人間生活学部	人間福祉学科(社会福祉コース)	5名			

★人間福祉学科社会福祉コースについては、23年度編入生から社会福祉士国家試験受験資格取得が可能となります。

◆オープンキャンパス

日時:平成23年3月27日/4月24日/5月22日
いずれも日曜/13:00~16:00
場所:本学新座キャンパス。事前予約は不要。



◆学校見学

随時受け付けています。事前予約は不要。
[月~金]9:00~17:00
[土]9:00~16:00(日祭日は除く)

お問い合わせ 募集・入試センター ☎:0120-8164-10

平成22年度公開講座レポート

今年度も大盛況! 多彩な講座をお届けしました

十文字学園女子大学エクステンションセンターでは今年度も、各学科主催による公開講座や研修会、シンポジウムをはじめ、桐華祭での講演会、小学生対象の「子ども大学にいざ」、彩の国大学コンソーシアム主催の講座など、より開かれた大学を目指して多彩な「学びの場」を提供してまいりました。

国語国文学会講演会(5月)では、国立民族学博物館教授の小長谷有紀氏に「日本文学とチンギス・ハーン」をテーマにわかりやすくお話しいただきました。

前期・後期の6回にわたって開かれた社会情報学科の「生活に役立つ情報講座」では、実習形式の各種パソコン体験講座に加え、講義形式の「国際会計基準(IFRS)導入でなにが変わるか」を実施。人間発達心理学科講演会(10月)には、パリ13大学教授のシルヴィ・レイナ氏を講師にお迎え

し、日仏教育学会と共催で「フランスの乳幼児の発達支援・子育て支援・教育の現在」を開催しました。

食物栄養学科は本学同窓会の「若桐会」と共催で、10月にシンポジウム「運動生化学セミナー」、12月に「高齢者のための調理教室」を実施。また、「埼玉まなびいプロジェクト協賛事業」として、コミュニケーション学科が公開講座「人生、より多く生きる」(11月)を、人間福祉学科がシンポジウム「あらためて高齢者介護とは何か〜これからの10年を展望して〜」(12月)をそれぞれ開催しています。

他方、学科主催以外の講座も充実。10月23日(土)・24日(日)の両日に行われた学園祭「桐華祭」では、演劇評論家で本学客員教授の渡辺保氏が講演。「ミュージカルの楽しみ方〜「オペラ座の怪人」と「シカゴ」と〜」と題し、華やかなミュージカ

ル映画の見どころが紹介され、多くの聴衆を魅了しました(p.9に関連記事)。

新座市内大学公開講座(新座市教育委員会共催)は、小学生向け講座「子ども大学にいざ」十文字で学ぼう」を開講。12月の「子ども音楽鑑賞教室」で全4回の講座を締めくくりました(p.10に関連記事)。

本学の女性と情報研究センター、および高齢社会生活研究所は合同で映画上映会と鼎談を企画。「映画『折り梅』にみる老いの幸せ」(11月)に多くの受講者が集まりました。さらに、本学をはじめ埼玉エリアの19大学が名を連ねる「彩の国大学コンソーシアム」では、児童幼児教育学科の齋藤麗子教授を講師に「タバコ対策 世界の流れと日本の現状 スモークフリー社会の実現へ」と題する公開講座を開き、好評を博しました。



人間発達心理学科講演会「フランスの乳幼児の発達支援・子育て支援・教育の現在」(日仏教育学会共催)



「子ども大学にいざ」第3回「オリエンテーリングで遊ぼう」



国語国文学会講演会「日本文学とチンギス・ハーン」

★平成23年度公開講座については詳細が決まり次第、本学ホームページに掲載いたします。ご案内パンフレットをご希望の方は、エクステンションセンターまでご連絡ください。

エクステンションセンター
TEL : 048-477-0579 (直通)
FAX : 048-477-0764
E-mail : ext@jumonji-u.ac.jp

横須賀学長代行

Flash Report

中国大使館の新年会で挨拶

~北京語言大学との交流を紹介~

1月14日(金)夕、中国大使館主催の「中日教育交流新年交歓会」が東京・江東区の教育処ホールで開かれ、本学の横須賀学長代行が、日本側出席者を代表して挨拶した。

冒頭、教育・交流部門を担う孫建明中国大使館公使参事官が、一衣帯水の中国と日本とが留学生を通して交流の厚みを増す意義を強調し、「人間と人間の触れ合いを一層、密にしていきたいと思います」と歓迎の言葉を述べた。

横須賀学長代行は、首都圏など40大学の日本側出席者を代表して中国大使館に交歓会開催の謝意を述べた後、「十文字学園は昨年、十文字一夫理事長が訪中して北京語言大学と友好協定を結び、中国との留学生交流、教員交流に心を注いでいます」と本学の積極的な取り

組みを紹介した。孫公使参事官も北京語言大学出身で、本学の今後の交流充実を期待を寄せた。

(留学生センター長 大西正行/p.5に関連記事)

